



芝浦だより

子供たちのよさや可能性を引き出す ～めざす学校像～

校長 瀨尾 敏恵

新年度がスタートして一か月が経ちました。その間、とても微笑ましく、伝えたいエピソードがございました。

始業式の次の日のこと。登校時間、私は、いつものように正門に立って登校する子供たちを迎え入れていました。その中、2年生の子が、私の前で立ち止まって、自分が被っている校帽を人差し指でつつんと突いて見せたのです。その行動の意味をすぐには理解できなかったのですが、その真新しい帽子を見て気付きました。「今日から、青色になったよ。」ということだったのです。上級生と同じ色の帽子を被れるようになって嬉しかったのでしょうか。誇らしそうでもありません。いつもは照れくさそうにぺこりと会釈をして通過していただけの子が、ここまでアピールするとは。子供は大人が思っている以上に、進級できたことに喜びを感じていることが分かった出来事でした。

そしてこちらは休み時間の出来事。校庭で子供たちが遊んでいる様子を見てみると、5年生の子が「大変。大変だなあ。」と言いながら話し掛けてもらいたそうに近寄ってきました。何が大変なのかと聞くと、「新聞委員会になった。学校のために働かなくちゃいけないから、大変。」と言うのです。どうも新聞委員会に決まったことを伝えなかったようでした。「新聞を書くことが好きなの。」と聞くと、笑顔でこくりと頷きました。その表情からは、大変だとは言いながらも、自分が好きな新聞づくりで学校に貢献できることを嬉しく思っているようでした。加えて、その子が言った「学校のために」という言葉からは、単に委員会の所属を決めるのではなく、委員会の活動の意義（児童が主体的に組織をつくり、役割を分担し、計画を立て、学校生活の課題を見いだし解決するために話し合い、合意形成を図り実践すること）を理解させる指導が行われ、それをしっかりと子供が受け止めていたことが分かりました。とても嬉しいことでした。

授業や子供たちの様子を観るために、各教室を巡回していますが、この4月は、子供たちが張り切っている様子がより感じられました。話題にした二人だけでなく、多くの子が、進級できたことの喜びと、新たな環境の中で新たなことにチャレンジできることへの意気込みが高まってきていることを感じています。

これら子供たちの姿を目の当たりにし、15年ほど前に発行されベストセラーにもなった『夢をかなえるゾウ』（水野敬也著作）を思い出しました。いわゆる自己啓発本なのですが、登場人物の掛け合いがコミカルで楽しみながら読み進められることができる著書です。他人と自分を比較し、自分の無力さを嘆き、いつかは成功したい、変わりたいと願うだけのサラリーマン“僕”の前にガネーシャという象の神様が現れます。ガネーシャは、“僕”が夢を叶えられるようにと、29の課題を毎日与えます。“僕”は、理不尽な要求に振り回されながらも、与えられた課題を一つ一つ「行動」に移すことで、少しずつ自分が変わっていくことを感じ取り、自信を取り戻していく…という話です。

ガネーシャが“僕”に与えた課題（「行動」すべきこと）の一部を右に載せました。「靴を磨く」は、自分を支えてくれている物・人を大切にすることの重要性、「トイレ掃除をする」は、人がやりたがらないことをやることに価値が生まれることなど、どの課題にもやるべき理由があるのですが、これらの課題は一つの例であって、ガルーシャの本当のねらいは、“僕”に課題を毎日実践させることで、「自分を変え、成功するためには、自分が決めたことを行動に移すことが大切であること」を教えていたのです。

進級という節目を迎え、目の前の子供たちは、「行動」に移したくてうずうずしている状態です。本校のめざす学校像「活気と温もりにあふれ、一人ひとりのよさや可能性を生かす『チーム芝浦小学校』」にある「よさや可能性」は、「行動」によって引き出され、発揮されるものです。そして、“僕”と同じように「行動」することによって自分が変容していくことを実感し、子供たちは一回りも二回りも成長していくのです。

『夢をかなえるゾウ』の「課題」(行動すべきこと)

(一部抜粋)

- ・靴を磨く
- ・人が欲しがっているものを先に与える
- ・会った人を笑わせる
- ・トイレ掃除をする
- ・その日頑張った自分をホめる
- ・毎日何かをやめてみる
- ・続けるための意識ではなく環境を変える
- ・毎朝鏡を見て身なりを整える
- ・自分が得意(苦手)なことを人に聞く
- ・運が良いと口に出す
- ・明日の準備をする
- ・身近にいる大切な人を喜ばせる
- ・人をホめる
- ・人の長所を盗む
- ・やらずに後悔していることを今日から始める
- ・人の成功をサポートする
- ・才能が評価される場に身を置く
- ・毎日感謝する